

【ふじのくにの里山 -茶畑の昆虫調査】 アースウォッチ・教員フェローシップ 実践報告書

小平市立花小金井南中学校

齋藤 暁

野外調査実施日 2025 年 1 0 月 4 日（土）

1. 調査での気づき

野外調査に参加し、日本の豊かな生物多様性が「人の営み（里山）」の継続によって守られてきたという事実を知りました。また、林業についての野外調査に参加した際にも感じましたが、人の手が入ることによって保たれる多様性について実感することができました。静岡県には国内の植物種の約半分が存在するが、その 12%が絶滅危惧種であるという現状は衝撃的でした。特に、かつて国土の 30%を占めた草原が今や 1%に激減しているという背景は、生徒に伝えるべき重要な視点だと感じました。茶草場農法が、お茶の品質向上だけでなく、意図的な草刈り管理によって絶滅危惧種の「すみか」を創出している現場を目の当たりにし、この伝統農法の継承が生物多様性保全に直結していることを肌で感じるすることができました。

2. 調査内容で得た知識を応用した授業実施の概要

「エシカル消費：思いを知り、考え、判断する消費」をテーマに、以下の構成で授業を実施しました。

- **【体験】お茶を淹れる実習：** 調理室にて、急須を使って茶草場農法で育てたお茶を淹れる体験を行いました。家で急須を使う習慣が失われつつある中、生徒たちは手順を確認しながら、香りや味に向き合っていました。
- **【講義】静岡の自然と農法：** 桃太郎の「芝刈り」の本来の意味（薪拾い）から、草原環境の減少を解説。茶草場農法が多大な手間をかけて生物多様性を守っている仕組みを伝えました。
- **【議論】消費の選択：** 「低コストな一般農法のお茶」と「手間をかけて環境を守る茶草場農法のお茶」、自分ならどちらを買うか、エシカル消費の視点から議論しました。



3. 授業実施時の子どもたちの反応や感想（画像は生徒数人を抜粋したもの）

生徒からは、自身の購買行動と環境問題の繋がりについて、以下のような感想が寄せられました。

- 「同じ味、香り、価格のお茶について考えることが、農家の方の思い、生態系に関わっていると知って驚いた。」
- 「安い方がいいと思っていたけれど、その背景を知ること、価値を感じる方を選択していく『エシカル消費』の意味について学んだ。」
- 「静岡の伝統的な農法が絶滅危惧種を守っている。自分たちもお茶を入れることから始めて、世界に関わっていきたい。」

☆授業で考えたことなど、感想を書きましょう。

普段はコンビニとかで茶を買った時は全然知らなかった。今は、ペットボトルを買えば、その場で茶を飲むことができるけれど、急須で入れたお茶はまた違う味を味わうことができる。また、家にある急須を活用しようと思った。また、お茶以外にも様々な努力をしている商品について購入できるようにになりたいと思った。茶草場農法やエシカル消費を家族に教えようと思う。

☆授業で考えたことなど、感想を書きましょう。

私の祖母も農家で、企業より個人の力がコストも負担も高ければ、売に十分に見合っていないんじゃないかと思っていた。でもお茶も身近にあるのに、裏の努力や、その価格にするまでの工夫も全然知らなかった。言われないと気づかない工夫もたくさんある。でも、お茶を飲むことができて、少しでもこれにはこんな工夫があるというのを知ろうとしてみることをまず大切にしていきたい。生産者の人が、お茶のためにしてくれている大変な努力が、少しでも報われる形になるように、自分にできることをしたいと思った。

☆授業で考えたことなど、感想を書きましょう。

茶草場農法やエシカル消費のことは全然知らなかった。環境とかに配慮したものより、1杯につくる大企業の方が安くなったりすることが多いけど、その少しのお値段の違いで環境を壊れることができるかもしれない。思いを全て知るのにはすごく大変だけれど、いろいろなことを知って自分や社会、環境への正しい選択ができるようにしたい。

私の祖母も農家で、企業より個人の力がコストも負担も高ければ、売に十分に見合っていないんじゃないかと思っていた。でもお茶も身近にあるのに、裏の努力や、その価格にするまでの工夫も全然知らなかった。言われないと気づかない工夫もたくさんある。でも、お茶を飲むことができて、少しでもこれにはこんな工夫があるというのを知ろうとしてみることをまず大切にしていきたい。生産者の人が、お茶のためにしてくれている大変な努力が、少しでも報われる形になるように、自分にできることをしたいと思った。

4. 授業を実施してみた感想

フェローシップで実際に茶草場、藪の状況や、シカ・イノシシによる被害といった「現場の生きた課題」を体感していたからこそ、言葉に血を通わせ、生徒の心に響く授業ができたと感じています。実習で「お茶の美味しさ」を知り、その後の講義で「お茶が守る自然」を知るという流れにより、深い学びを構築することができました。

5. 体験を語ることによる子どもたちの学びへの影響について

教員自らが現地へ赴き、研究者や農家さんと共に活動した体験を語ることは、生徒にとって教科書以上のリアリティをもたらしました。「先生が見てきたこと、感じたこと」を話すことで、遠い場所の出来事ではなく、自分たちの住む地域の地続きの課題として捉えさせることができました。（画像は授業時に用いたスライドです）



1 *



2 *



3 *



4 *



5 *



6 *



7 *



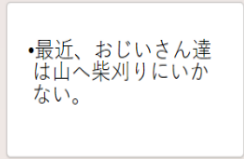
8 *



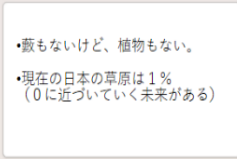
9 *



10 *



11 *



12 *



13 *



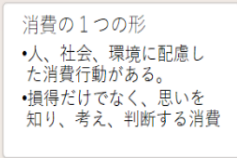
14 *



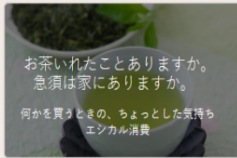
15 *



16 *



17 *



18 *